

取調べの可視化 ニュース (通算第59号)

2024

第30号
2024.4.1

今号の特集

- <開催報告>
 - ・全事件での「取調べ可視化」を考える～Winny上映会
 - <注目事件の報告>
 - ・被疑者ノート検査、黙秘権侵害国賠 (続報)
 - <各地の市民集会>
 - ・1/27市民集会「他人事ではない！見えない取調べの実態～取調べの全面可視化、そしてその先へ～」(広島)
 - ・2/10Winny上映会&松本優作監督・秋田真志弁護士によるトークセッション (福岡県)
- <【ご案内】第4回苦情申入れに関する経験交流会を開催します>

編集責任：取調べの可視化本部

開催報告

全事件での「取調べ可視化」を考える Winny上映会

取調べの可視化本部幹事 工藤 杏平(第二東京弁護士会)

2024年1月22日、霞が関の弁護士会館において「全事件での「取調べ可視化」を考える～Winny上映会」が開催されました。第一部では、映画「Winny」を上映しました。

映画「Winny」は、当時革新的であったフアイル交換ソフト「Winny」による違法アップロードが社会問題化し、逮捕者が続出する中、著作権法違反幫助の容疑で開発者の金子勇氏が逮捕され、弁護士を結成して裁判を闘い抜く人々の奮闘の日々が描かれています。

弁護士としての視点で見られるだけでも、ケース・セオリー構築の過程や、反対尋問の準備と実践、専門用語や技術の公判での立証の工夫など、多くを学ぶことができました。また、「取調べ可視化」の観点では、「もし可視化がされてい

れば、不当な自白は取られていなかったはずである」という、密室取調べの問題点がリアルに描かれており、改めて全事件での「取調べ可視化」の重要性が伝わってきました。

第二部では、ゲストとして、映画「Winny」の松本優作監督、弁護士として活躍された秋田真志(大阪)をお招きし、田岡直博(香川)をコーディネーターとして、トークセッションを実施しました。

松本監督からは、映画制作の裏側や、「Winny」を題材に選んだ理由やこの映画を通して伝えたいことを丁寧にお話いただきました。



トークセッションの松本監督と秋田真志



上映会終了後の撮影会

また、秋田真志からは、事件の実相や、「取調べ可視化」の問題をお話いただき、事件から20年を経た現在でも残る、法制度の不足やその危険性を実感できました。

本上映会は、170名を超える方に参加いただき、不当な取調べの実態や全事件の「取調べ可視化」の必要性などを広くお伝えする良い機会となりました。

注目事件の報告

被疑者ノート検査、黙秘権侵害国賠(続報)

取調べの可視化本部事務局次長 吉田 康紀(札幌弁護士会)

1 事案の概要

本件は、2021年6月、母親Aが、2歳の男児をクローゼットに閉じ込めたとして監禁罪で逮捕され、逮捕の翌日に男児が死亡し、最終的に嫌疑不十分不起訴で終了した刑事事件に関する国賠事件で、被疑者ノートの持ち去りと黙秘権を侵害する取調べを違法行為として構成しています。本年1月の取調べの可視化ニュース(通算第58号)でもご報告しており、本稿はその続報です。

2 取調べの録音・録画 記録媒体の法廷再生

2024年1月31日の口頭弁論期日において、約25時間に及ぶ取

3 メディア公開

黙秘権をないがしろにする不当な取調べが横行していることを世に訴える意義があることに加え、別件で検察官の取調べ映像が公開

4 訴訟の進行

訴訟は終盤に差し掛かっており、被疑者ノートの持ち去りに関し、留置係の警察官2名の尋問が請求されました。陳述書を読んだ原告女性は、あまりにも事実と異なる内容に驚き、法廷に立つことを承諾してくれたため、遮蔽措置を条件とした当事者尋問を請求することにしました。

調べ映像を約13分にまとめ、原告女性の姿と声を編集した動画が法廷の大型モニターで再生されました。原告側は、記録媒体の全てを証拠として提出していますので、法廷再生は、証拠調べとしてではなく、あくまで公開のための事実上の手段として行われました。傍聴された方から、「音声と字幕が小さく、とても分かりにくかった」という話があり、法廷再生の際には傍聴席に分かりやすくするための工夫が必要だと思われました。

各地の市民集会

1/27市民集会「他人事ではない！見えない取調べの実態～取調べの全面可視化、そしてその先へ～」(広島)

取調べの可視化本部事務局次長 井上 明彦(広島弁護士会)

2024年1月27日、広島弁護士会館にて、市民集会「他人事ではない！見えない取調べの実態～取調べの全面可視化、そしてその先へ～」を開催しました。

河津博史弁護士(第二東京)による「報告」では、元厚生労働省局長村木厚子さんの事件を契機に法制審議会に設けられた「新時代の刑事司法制度特別部会」での議論状況、そして、最終的に、村木さんら4人の一般有識者委員が将来的に可視化の範囲が拡大されることを期待しつつ一部事件の可視化を受け入れる苦渋の意見を出したこと、しかし、「改正刑訴法」に関する刑事手続の在り方協議会」で

は、問題のある取調べが今も行われている現実を省みない議論が行われていることなどが明らかになりました。

三重県鳥羽警察署事件と江口大和元弁護士事件の取調べ音声や動画の「再生」では参加者から「まるでドラマみたいだと最初は思いました」、「2つの事件の再現はとてこわかった」などの感想が寄せられ、現実の取調べの様子を体験してもらったことの重要性が改めて確認できました。

となく、プレサンス事件で「可視化」された中でストーリーありきの強引な取調べを行っており、「立会い」もなければ、問題のある取調べを完全に防げないことが明らかになりました。

最後の質疑応答では、多数の参加者から手が挙がり、若い参加者から「自分はたまたま今日この問題を知ることができたが、この問題はたくさん若い人達が知らないといけない。弁護士会ではSNSも駆使して広報を頑張ってもらいたい」という意見をもらえたことが印象的でした。

2/10 Winny上映会&松本優作監督・秋田真志弁護士によるトークセッション(福岡)

取調べの可視化本部委員・福岡県弁護士会刑事弁護等委員会委員長 花田 浩昭(福岡県弁護士会)

2024年2月10日、福岡県弁護士会会館設立5周年記念イベントのメインイベントとして「Winny上映会&松本優作監督・秋田真志弁護士によるトークセッション」が福岡県弁護士会館大ホールにて開催されました。

開催に当たっては、新聞社等の協力もあり、様々な媒体で告知を行うことができ、福岡の刑事関連のイベントとしては異例の170名以上の市民の方に参加いただきました。ご来場いただいた皆様、テレビ、新聞で大きく報道されることとなりました。

松本監督からは、実際の裁判をいくつも傍聴するなどしたこと、あつて、映画の中の刑事手続がよりリアルなものとなったことなどを丁寧にお話いただきました。

秋田真志弁護士からは、「Winny」では描かれなかった事件の背景や、映画で自身の役を務められた吹越満さんとの違いなどユーモアを交えてお話いただきました。

市民の方の感想として印象に残っているのは、「今の時代でも、映画の中であつたような強引な取調べがなされているとすれば、捜査機関を信用することができない」というものでした。だからこそ、全事件の可視化、取調べへの弁護士の立会いが必要であることが市民の皆様と再認識することができました。

今回のイベントを通じ、映画「Winny」の上映と松本監督・秋田真志弁護士のお話という組合せは、取調べの可視化を市民に広く知ってもらう上で、非常に効果的なものだと実感しました。

【ご案内】第4回苦情申入れに関する経験交流会を開催します

取調べの可視化本部事務局次長 端 将二郎(福井弁護士会)

過去3年に引き続き、本年も苦情申入れに関する経験交流会を開催します(本年5月16日午後3時～5時)。苦情申入れによる取調べへの波及効果はもとより、少しでも効果があつた事例等について情報を共有し、今後の弁護実践に

繋がる機会としたいと考えています。また、現在、法務省において「改正刑訴法」に関する刑事手続の在り方協議会が実施され、改正刑訴法施行3年後見直しについての議論がなされていますが、弁護人による苦情申入れは、全事件の

取調べの可視化実現に向けても重要な意味を持ちます。これまでに苦情申入れをしたことがない方も、ぜひこの機会に苦情申入れの実情について把握いただき、今後の弁護活動に取り入れていただければと思います。